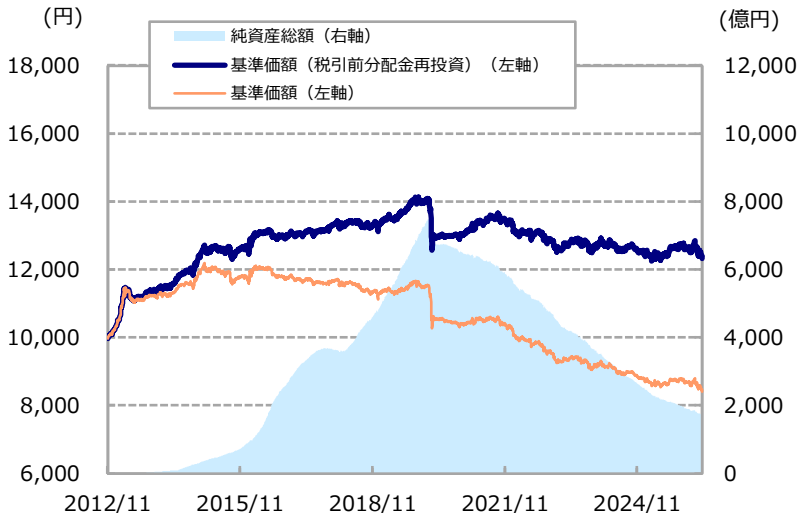




基準価額、パフォーマンス等の状況

基準価額・純資産総額の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。
 ※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
 ※基準価額は1万口当たりで表示しています。
 ※設定日は2012年11月9日です。

基準価額・純資産総額

基準価額	8,408 円
純資産総額	1,714 億円

騰落率（税引前分配金再投資、%）

	ファンド
1か月	-0.58
3か月	-1.52
6か月	-3.06
1年	-0.99
3年	-3.84
設定来	+23.22

※ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものと計算しているため、実際の投資家利回りとは異なります。

分配の推移（1万口当たり、税引前、円）

決算日	分配金	決算日	分配金
2025/5/23	15	2025/11/25	15
2025/6/23	15	2025/12/23	15
2025/7/23	15	2026/1/23	15
2025/8/25	15	2026/2/24	15
2025/9/24	15	2026/3/23	15
2025/10/23	15	2026/4/23	15
		設定来累計	4,085

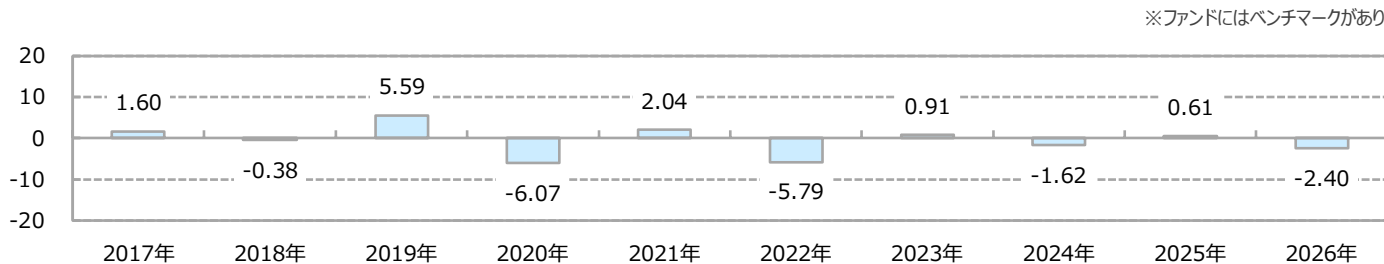
※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。
 分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。

当月の基準価額変動要因（参考情報）

騰落額	-64 円
日本債券マザーファンド	-51 円
日本株式マザーファンド	-17 円
日本REITマザーファンド	25 円
分配金	-15 円
信託報酬等	-6 円

※上記は簡便法で計算しており、その正確性、完全性等を保証するものではありません。傾向を知るための目安としてご覧ください。
 ※上記は過去の実績であり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

年間収益率の推移（%）



※ファンドにはベンチマークがありません。

※ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資したものと計算しています。
 ※当年は昨年末と基準日の騰落率です。※上記は過去の実績であり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

主要な資産の状況

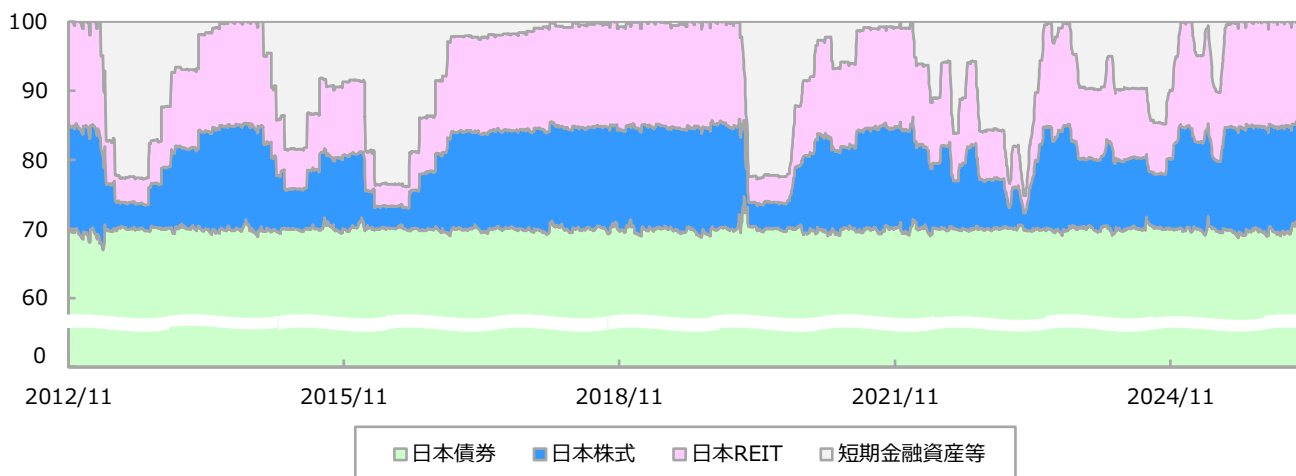
各マザーファンド組入比率、騰落率（%）

マザーファンド	組入比率	基本資産配分	差	騰落率				
				1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本債券	70.4	70.0	+0.4	-0.86	-1.30	-5.21	-6.78	-11.15
日本株式	14.6	15.0	-0.4	-1.36	+0.76	+9.31	+20.69	+48.05
日本REIT	14.7	15.0	-0.3	+2.12	-3.58	-2.14	+14.89	+12.69
短期金融資産等	0.4	-	+0.4					

※比率は、純資産総額に占める割合です。

※短期金融資産等には未払金等が含まれるため、組入比率がマイナスとなる場合があります。

各マザーファンド組入比率の推移（%）



※比率は、純資産総額（一部の未払金の計上を除く）に占める割合です。

ファンドマネージャーコメント

＜運用経過および今後の運用方針＞

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、日本債券70%、日本株式15%、日本REIT15%の資産配分比率を基本としますが、基準価額の変動リスクが大きくなった場合は、日本株式と日本REITの資産配分比率を引き下げて運用を行います。

当月は、当ファンドの基準価額の変動リスクに大きな変化がなかったことから、日本株式および日本REITのマザーファンド組入比率（合計）も大きな変化はありませんでした。

この間マーケットでは、日銀の利上げ継続姿勢や米国の早期利下げ観測の後退、原油高を背景としたインフレリスクへの警戒感などから、10年国債利回りは上昇しました。日本株式市場は、米国とイランの停戦期待やAI・半導体関連企業の成長期待などから上昇しました。日本REIT市場は、中東情勢の収束期待から上昇した後は、金利上昇などが嫌気され、上昇幅を縮小しました。

以上の環境下、日本REITマザーファンドは上昇した一方、日本債券マザーファンド、日本株式マザーファンドが下落したことから、当ファンドの基準価額（税引前分配金再投資）は0.58%下落しました。日本株式マザーファンドについては、株式市場が主に成長期待で上昇するなか、高配当低ボラティリティのファンド特性がマイナスに影響しました。

各マザーファンドの運用状況については、次ページをご参照ください。

引き続き、基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、日本株式と日本REITの資産配分比率をコントロールする方針です。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

ファンドマネージャーコメント（続き）

【日本債券】

4月の国内長期金利（10年国債利回り）は上昇しました。

上旬から中旬にかけて、米国とイランの停戦合意観測により4月の日銀金融政策決定会合における利上げ期待が高まるなか、10年国債利回りは上昇基調となりました。月半ば以降は、原油価格の下落や、20年国債入札が好調な結果になったこと、4月の日銀金融政策決定会合で利上げを見送るとの観測報道などが好感され、10年国債利回りは低下に転じました。

下旬以降は、中東情勢の不透明感が再び高まったことを受けて、10年国債利回りは徐々に水準を切り上げる展開となりました。月末にかけては、日米の金融当局が政策金利の据え置きを決定したものの、日銀は次回利上げに向けて前向きな姿勢を示し、米国でも早期利下げ観測が後退したことから10年国債利回りは一段と水準を切り上げ、2.5%を上回る水準で終了しました。

日本債券マザーファンドの基準価額は、社債利回りの上昇を受け、前月末対比下落しました。当月は、日米の政治・経済や金融政策の動向による社債市場への影響を考慮しつつ、安定的に利回りを確保できる可能性が高いと判断した社債を厳選して組み入れました。

引き続き残存年限と銘柄の分散ならびに流動性の確保に留意し、インカム収益の向上に資する可能性が高いと判断した社債を中心に厳選して組み入れ、安定的な運用を目指します。

【日本株式】

4月の国内株式市場は、TOPIXは6.56%上昇（配当込みベースは6.57%上昇）、日経平均株価は16.10%上昇しました。

上旬は、米国とイランの停戦合意期待が高まったことで投資家心理が改善したことや、SOX指数（フィラデルフィア半導体株指数）の史上最高値更新を背景にAI・半導体関連銘柄に買いが広がったことを受けて、国内株式市場は上昇しました。

中旬は、原油価格の下落が好感されたことに加え、台湾大手半導体企業の好決算を受けて半導体関連銘柄に買いが集まったことや、AIディスラプション（既存の産業構造やビジネスモデルが根本的に破壊されて変化する現象）が懸念されていたITソフトウェア関連銘柄の見直し買いなどから、国内株式市場は上昇しました。

下旬は、米国金融政策の先行き不透明感や中東情勢に対する懸念を受けた原油先物価格の上昇、日銀金融政策決定会合で利上げ姿勢の維持が確認されたことなどが嫌気され、国内株式市場は下落しました。

日本株式マザーファンドの基準価額は1.36%下落し、TOPIX（配当込み）との比較では7.93%のアンダーパフォームとなりました。市場連動性の低い銘柄や配当利回りの高い銘柄などの保有が多かったことがマイナス寄与となりました。

引き続きポートフォリオ全体の配当利回りを高める戦略と価格変動リスクを低く抑える戦略を組み合わせることで、ポートフォリオ全体の価格変動リスクをTOPIX（配当込み）の価格変動リスクより低く抑えつつ、中長期的にTOPIX（配当込み）と同程度のリターンを目指します。

【日本REIT】

4月の日本REIT市場は、米国とイランの停戦合意による紛争終結期待の高まりから上昇しましたが、原油価格の高止まりを受けたインフレリスクへの警戒感や、日銀金融政策決定会合で利上げ姿勢の維持が嫌気され、反落して上昇幅は縮小し、前月末対比1.72%上昇（配当込みベースは2.04%上昇）となりました。

上旬は、米国とイランが2週間の停戦合意に至るなど、紛争終結期待が高まり、日本REIT市場は上昇しました。また、米国の3月の雇用統計などが堅調な結果となり、インフレ下での景気悪化懸念が後退したことも相場の下支えとなりました。

中旬は、米国・イラン間で停戦協議が進展するとの期待から、日本REIT市場は上昇しましたが、依然として中東情勢の先行き不透明感は強く、一進一退の相場が続きました。

下旬は、トランプ米大統領が米国とイランとの停戦を無期限延長し、ホルムズ海峡の封鎖長期化による原油価格の高止まりが警戒され、日本REIT市場は下落しました。その後は各国の金融政策決定会合を控えて様子見の相場が続きましたが、日銀が展望レポートで物価見通しを大きく引き上げたことから日本の長期金利が上昇し、日本REIT市場は下げ幅が拡大しました。

日本REITマザーファンドの基準価額は2.12%上昇しました。日本REIT市場では多くの銘柄が上昇するなか、保有する宿泊施設物件での契約改定により鑑定評価額が増加した森トラストリート投資法人が大きく上昇しました。

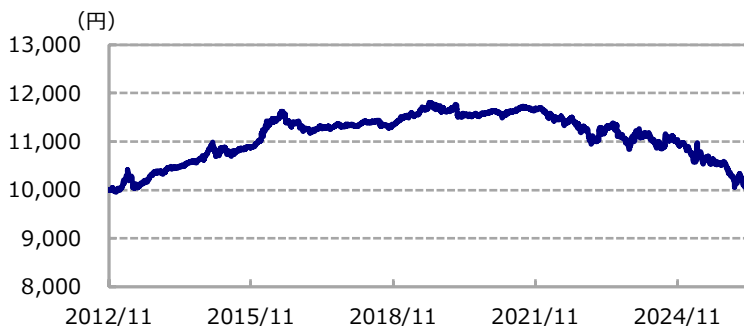
今後も、J-REITの市場流動性（流動性基準）とスポンサー企業の信用力や財務健全性（信用リスク基準）に基づいて絞り込んだ銘柄を対象として、時価加重比率と売買金額加重比率を合成したポートフォリオで運用します。

Monthly Report

東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型） 愛称：円奏会

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド

基準価額の推移



※ベビーファンド設定日前営業日（設定日=2012年11月9日）のマザーファンドの基準価額を、10,000円として指数化しています。

※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

債券種別構成（%）

種別	比率
国債	6.3
うち物価連動国債	0.2
地方債	13.0
政府保証債	0.7
金融債	-
事業債	78.6
うち劣後債	10.2
円建外債	-
MBS・ABS	0.4
CP（コマーシャル・ペーパー）	-
短期金融資産等	0.9
合計	100.0

純資産総額	1,892 億円
-------	----------

※短期金融資産等は、組入有価証券・CP以外のものです。

※比率は、純資産総額に占める割合です。

残存年限別構成（%）

残存年限	比率
5年未満	29.0
5年以上10年未満	28.4
10年以上15年未満	20.9
15年以上20年未満	20.8
20年以上	-

※途中償還等を考慮して計算しています。

※比率は、純資産総額に占める割合です。

保有債券の属性情報

残存期間（年）	9.24
修正デュレーション	8.26
クーポン（%）	1.29
最終利回り（複利、%）	2.76
直接利回り（%）	1.48
平均格付	AA-

※各保有債券の数値を加重平均した値です。

※保有債券の時価総額を基に計算しています。

※途中償還等を考慮して計算しています。

※修正デュレーションとは、金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標であり、その値が大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※格付は、Moody's社、S&P社、R&I社、JCR社、Fitch社のうち、上位のものを使用しています。

※平均格付は、格付毎に点数化し、加重平均した結果を四捨五入して表示しており、当ファンドの格付ではありません。また、保有債券のうち、格付が取得できない場合は、除外して計算しています。

格付別構成（%）

格付	比率
AAA格	9.1
AA格	52.7
A格	31.6
BBB格	0.2
その他	6.4

※比率は、保有債券の時価総額に占める割合です。

※格付は、Moody's社、S&P社、R&I社、JCR社、Fitch社のうち、上位のものを使用しており、+・-等の符号は省略して表示しています。

※その他は、東京海上アセットマネジメントが投資適格相当とみなしている無格付の地方債・CP等です。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド（続き）

組入上位銘柄

※比率は、純資産総額に占める割合です。償還日は途中償還等を表示しています。

組入銘柄数	518
-------	-----

<上位10銘柄（CP除く）>

	銘柄	クーポン（%）	償還日	比率（%）
1	第27回株式会社オリエントランド無担保社債	2.091	2035/10/9	0.5
2	第19回株式会社ブリヂストン無担保社債	2.726	2036/4/25	0.5
3	第10回三井住友海上火災保険株式会社無担保社債	1.709	2032/7/23	0.5
4	第18回武田薬品工業株式会社無担保社債	1.935	2032/6/11	0.5
5	第5回AGC株式会社無担保社債	1.825	2035/3/5	0.5
6	第43回ソニーグループ株式会社無担保社債	1.709	2035/3/6	0.5
7	第24回キリンホールディングス株式会社無担保社債	1.318	2033/10/26	0.5
8	第16回ヒューリック株式会社無担保社債	2.177	2031/3/12	0.5
9	第9回横浜フィナンシャルグループ（劣後）	2.023	2030/10/10	0.5
10	第37回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（劣後）	1.303	2030/1/18	0.5

<上位5銘柄（CP）>

	銘柄	償還日	比率（%）
1	組み入れはありません。		
2			
3			
4			
5			

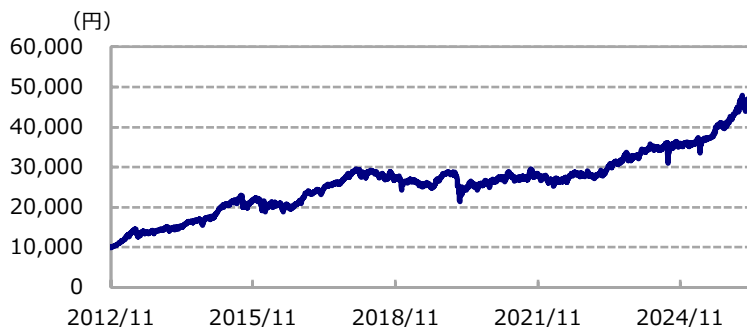
※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型） 愛称：円奏会

東京海上・高配当低ボラティリティ日本株マザーファンド

基準価額の推移



※設定日前営業日（設定日=2012年11月9日）のマザーファンドの基準価額を、10,000円としています。
 ※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

資産構成 (%)

資産	比率
株式	96.3
株式先物	-
短期金融資産等	3.7
合計	100.0
純資産総額	367 億円
予想配当利回り	2.99%

※予想配当利回りは、組入銘柄の今期または前期の予想配当利回り（課税控除前）を時価評価額で加重平均して計算しています。（NPMのデータを基に委託会社が作成）

組入上位10業種 (%)

業種	比率
1 電気機器	16.2
2 情報・通信業	8.5
3 銀行業	8.2
4 卸売業	7.6
5 化学	6.2
6 小売業	6.1
7 医薬品	5.8
8 サービス業	5.3
9 食料品	5.1
10 陸運業	4.2

組入上位10銘柄 (%)

銘柄	業種	比率
1 京セラ	電気機器	2.0
2 ヤクルト本社	食料品	2.0
3 オービック	情報・通信業	1.9
4 セコム	サービス業	1.9
5 KDDI	情報・通信業	1.9
6 王子ホールディングス	パルプ・紙	1.8
7 ホシザキ	機械	1.8
8 大阪瓦斯	電気・ガス業	1.8
9 ヒロセ電機	電気機器	1.7
10 八十二長野銀行	銀行業	1.7

※短期金融資産等は、組入有価証券以外のものです。 ※比率は、純資産総額に占める割合です。

組入銘柄数 144

TMA日本REITマザーファンド

基準価額の推移



※ベビーファンド設定日前営業日（設定日=2012年11月9日）のマザーファンドの基準価額を、10,000円として指数化しています。

※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄 (%)

銘柄	比率
1 ジャパンリアルエステイト投資法人	8.4
2 日本都市ファンド投資法人	7.8
3 野村不動産マスターファンド投資法人	6.5
4 オリックス不動産投資法人	6.1
5 日本ビルファンド投資法人	5.4
6 KDX不動産投資法人	4.9
7 ユナイテッド・アーバン投資法人	4.7
8 ジャパン・ホテル・リート投資法人	3.9
9 日本プライムリアルティ投資法人	3.5
10 アドバンス・レジデンス投資法人	3.2

組入銘柄数 48

資産構成 (%)

資産	比率	純資産総額
不動産投資信託証券	97.5	369 億円
短期金融資産等	2.5	予想分配金利回り
合計	100.0	4.78%

※短期金融資産等は、組入有価証券以外のものです。

※比率は、純資産総額に占める割合です。

※予想分配金利回りは、組入銘柄の今期または前期の予想分配金利回り（課税控除前）を時価評価額で加重平均して計算しています。（NPMのデータを基に委託会社が作成）

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

ファンドの特色（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

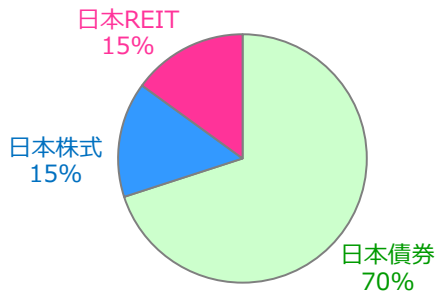
1. 主として、マザーファンドへの投資を通じて、国内の複数の資産（債券、株式、REIT）に分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

資産	マザーファンド
日本債券	東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド
日本株式	東京海上・高配当低ボラティリティ日本株マザーファンド
日本REIT	TMA日本REITマザーファンド

2. 各資産への配分比率は、日本債券70%、日本株式15%、日本REIT15%を基本とします。
- 上記の資産配分比率を基本としますが、ファンドの基準価額の変動リスクが大きくなった場合には、基準価額の変動リスクを年率3%程度に抑制することを目標として、株式とREITの資産配分比率をそれぞれ引き下げ、その引き下げた部分は短期金融資産等により運用します。（株式とREITの資産配分は、ほぼ同じ比率とします。）

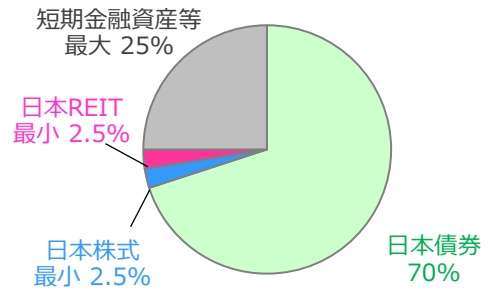
ファンドの資産配分比率のイメージ

《基本資産配分比率》



相対的に「安定した値動き」が期待できる「日本債券」の配分比率を70%とし、「成長性」に期待する「日本株式」と「日本REIT」の配分比率は、それぞれ15%とします。

《基準価額の変動リスクが大きくなった場合》



基準価額の変動リスクを3%程度に抑えることを目的として、「日本株式」と「日本REIT」の配分比率を引き下げます。引き下げた部分は、短期金融資産等により運用します。

- ※ 配分比率調整は、株式とREITの資産配分比率がほぼ同じ比率となるように行います。
- ※ 組入資産の価格変動や市況の動向等によっては、各資産の実際の組入比率は上記比率と異なる場合があります。
- ※ 上図は、実際のファンドの運用を示すものではありません。

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

ファンドの主なリスクについて（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

- ・ 投資する有価証券等の値動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本は保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。
- ・ 運用による損益は、全て投資者に帰属します。
- ・ 投資信託は預貯金や保険と異なります。
- ・ ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定されます。

- 価格変動リスク : 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。）。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。REITの価格は、REITが保有する不動産の評価の下落、不動産市況に対する見通しや需給等、さまざまな要因を反映して変動します。組入REITの価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
- 金利変動リスク : 公社債は、一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、反対に金利が下落した場合には価格は上昇します。したがって、金利が上昇した場合、基準価額が下落する要因となります。
- 信用リスク : 一般に、公社債や短期金融商品等の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合、またはデフォルトが予想される場合には、当該公社債等の価格は大幅に下落することになります。したがって、組入公社債等にデフォルトが生じた場合、またデフォルトが予想される場合には、基準価額が下落する要因となります。
- 流動性リスク : 受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

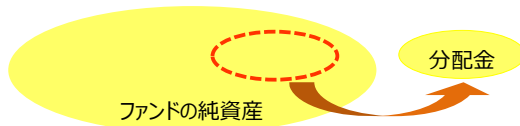
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金が支払われるイメージ



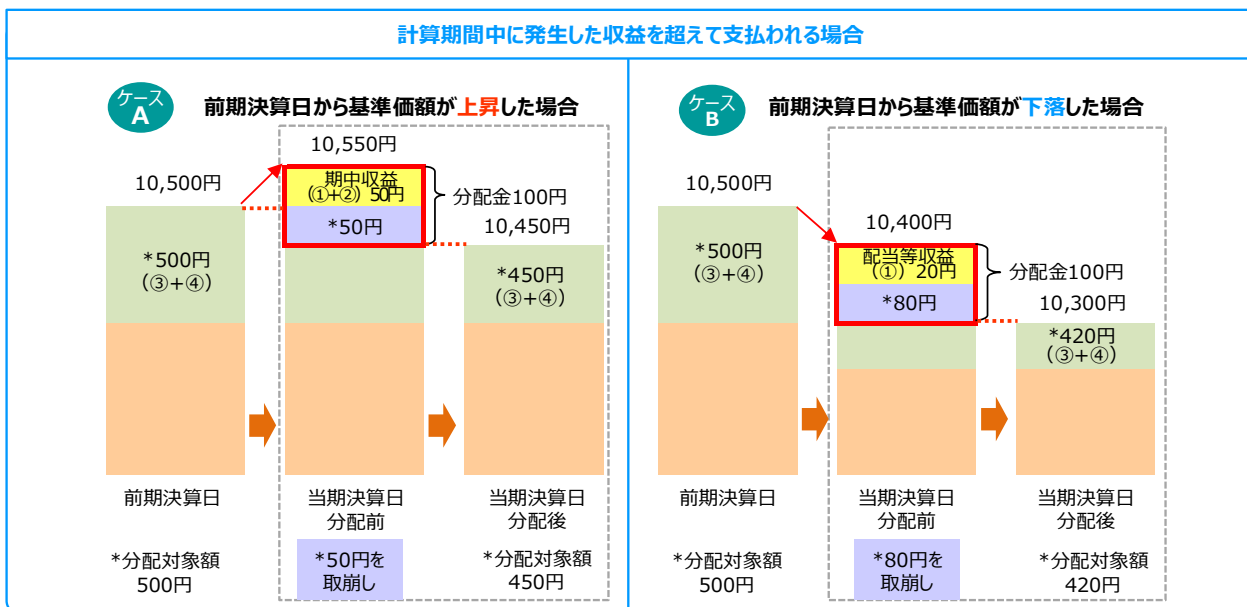
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配対象額は、

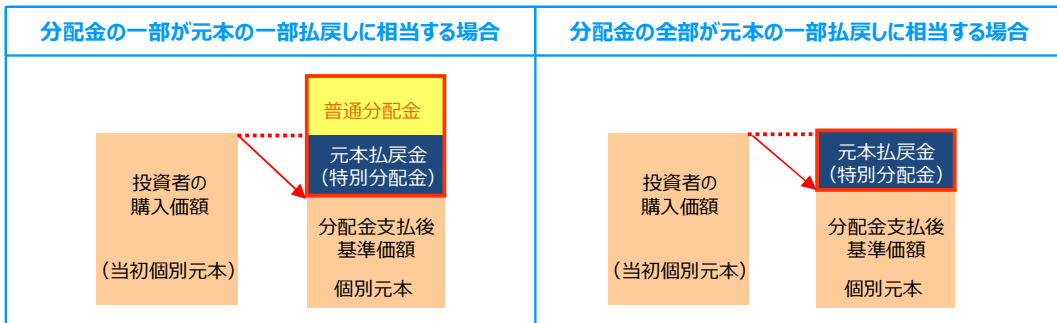
- ①配当等収益（経費控除後）
 - ②評価益を含む売買益（経費控除後）
 - ③分配準備積立金
 - ④収益調整金
- です。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



※上図はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

（注）普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型） 愛称：円奏会

お申込みメモ（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

購入単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して、5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時30分までに、販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。なお、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込不可日	ありません。
信託期間	2032年7月23日まで（2012年11月9日設定）
繰上償還	以下に該当する場合等には、繰上償還することがあります。 ・受益権の総口数が10億口を下回ることとなったとき ・ファンドを償還することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	毎月23日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年12回の決算時に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。 ※分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。
課税関係	収益分配時の普通分配金、換金時および償還時の差益に対して課税されます。 課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は、税法上、一定の条件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA」の適用対象となります。 ファンドは、「NISA」の対象ではありません。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 ※税法が改正された場合等には、内容等が変更される場合があります。

ファンドの費用（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

■ 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して <u>上限1.65%（税抜1.5%）</u> の範囲内で販売会社が定める率をかけた額とします。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの純資産総額に <u>年率0.924%（税抜0.84%）</u> をかけた額とします。
その他の費用・ 手数料	以下の費用・手数料等がファンドから支払われます。 ・ 監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 ファンドの純資産総額に年率0.011%（税込）をかけた額（上限年66万円） ・ 組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料 ・ 資産を外国で保管する場合にかかる費用 ・ 信託事務等にかかる諸費用 ※ 監査にかかる費用を除く上記の費用・手数料等は、取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、事前に表示することができません。

※ファンドが実質的に投資するREITについては、市場の需給等により価格形成されるため、REITの費用は表示しておりません。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、東京海上アセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申込みに当たっては必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社までご請求ください。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載された運用実績は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- 投資信託は、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。
- 投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。
- 登録金融機関から購入した投資信託は、投資者保護基金の補償対象ではありません。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社：東京海上アセットマネジメント株式会社
 ファンドの運用の指図を行います。
 商号等： 東京海上アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第361号
 加入協会：一般社団法人 資産運用業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
- 受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社
 ファンドの財産の保管・管理を行います。
- 販売会社

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	資産運用業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社 あいち銀行	○		東海財務局長（登金）第12号	○		○	
株式会社 あおぞら銀行	○		関東財務局長（登金）第8号	○		○	
株式会社 青森みちのく銀行	○		東北財務局長（登金）第1号	○			
株式会社 足利銀行	○		関東財務局長（登金）第43号	○		○	
株式会社 イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第633号	○			
いちよし証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第24号	○	○		
岩井コスモ証券株式会社		○	近畿財務局長（金商）第15号	○	○	○	
SMB C日興証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○
株式会社 SBI証券		○	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○
株式会社 SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社 SBI証券）	○		関東財務局長（登金）第10号	○		○	

Monthly Report

東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型） 愛称：円奏会

委託会社、その他関係法人

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社 SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社 愛媛銀行	○		四国財務局長（登金）第6号	○			
岡崎信用金庫	○		東海財務局長（登金）第30号	○			
岡三証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○
おかやま信用金庫	○		中国財務局長（登金）第19号	○			
株式会社 神奈川銀行	○		関東財務局長（登金）第55号	○			
株式会社 北日本銀行	○		東北財務局長（登金）第14号	○			
株式会社 紀陽銀行	○		近畿財務局長（登金）第8号	○			
株式会社 京都銀行	○		近畿財務局長（登金）第10号	○		○	
京都信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第52号	○			
株式会社 きらやか銀行	○		東北財務局長（登金）第15号	○			
株式会社 熊本銀行	○		九州財務局長（登金）第6号	○			
株式会社 群馬銀行	○		関東財務局長（登金）第46号	○		○	
株式会社 滋賀銀行	○		近畿財務局長（登金）第11号	○		○	
静銀ティールーム証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第10号	○			
株式会社 七十七銀行	○		東北財務局長（登金）第5号	○		○	
七十七証券株式会社		○	東北財務局長（金商）第37号	○			
株式会社 清水銀行	○		東海財務局長（登金）第6号	○			
株式会社 十八親和銀行	○		福岡財務支局長（登金）第3号	○			
株式会社 常陽銀行	○		関東財務局長（登金）第45号	○		○	
株式会社 仙台銀行	○		東北財務局長（登金）第16号	○			
株式会社 大光銀行	○		関東財務局長（登金）第61号	○			
第四北越証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第128号	○			
株式会社 大東銀行	○		東北財務局長（登金）第17号	○			
株式会社 千葉銀行	○		関東財務局長（登金）第39号	○		○	
株式会社 千葉興業銀行	○		関東財務局長（登金）第40号	○			
株式会社 中国銀行	○		中国財務局長（登金）第2号	○		○	
株式会社 筑波銀行	○		関東財務局長（登金）第44号	○			
東海東京証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○
株式会社 東京スター銀行	○		関東財務局長（登金）第579号	○		○	
株式会社 栃木銀行	○		関東財務局長（登金）第57号	○			
株式会社 鳥取銀行	○		中国財務局長（登金）第3号	○			
長野証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第125号	○	○		
株式会社 南都銀行	○		近畿財務局長（登金）第15号	○			
南都まほろば証券株式会社		○	近畿財務局長（金商）第25号	○			
株式会社 西日本シティ銀行	○		福岡財務支局長（登金）第6号	○		○	
野村証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第142号	○	○	○	○
株式会社 八十二長野銀行	○		関東財務局長（登金）第49号	○		○	
PWM日本証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第50号	○			○
株式会社 百五銀行	○		東海財務局長（登金）第10号	○		○	
百五証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第134号	○			

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型） 愛称：円奏会

委託会社、その他関係法人

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	資産運用業協会	一般社団法人 取引業協会 金融先物 一般社団法人	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社 百十四銀行	○		四国財務局長（登金）第5号	○		○	
ひろぎん証券株式会社		○	中国財務局長（金商）第20号	○			
株式会社 広島銀行	○		中国財務局長（登金）第5号	○		○	
株式会社 福岡銀行	○		福岡財務支局長（登金）第7号	○		○	
株式会社 福岡中央銀行	○		福岡財務支局長（登金）第14号	○			
株式会社 福島銀行	○		東北財務局長（登金）第18号	○			
碧海信用金庫	○		東海財務局長（登金）第66号	○			
株式会社 北都銀行	○		東北財務局長（登金）第10号	○			
株式会社 北陸銀行	○		北陸財務局長（登金）第3号	○		○	
株式会社 北海道銀行	○		北海道財務局長（登金）第1号	○		○	
松井証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
丸三証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第167号	○	○		
三菱UFJ eスマート証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
株式会社 三菱UFJ銀行	○		関東財務局長（登金）第5号	○		○	○
株式会社 三菱UFJ銀行 （委託金融商品取引業者）	○		関東財務局長（登金）第5号	○		○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社							
三菱UFJ信託銀行株式会社	○		関東財務局長（登金）第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第2336号	○	○	○	○
水戸証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第181号	○	○		
株式会社 みなと銀行	○		近畿財務局長（登金）第22号	○		○	
株式会社 山形銀行	○		東北財務局長（登金）第12号	○			
株式会社 山梨中央銀行	○		関東財務局長（登金）第41号	○			
株式会社 ゆうちょ銀行	○		関東財務局長（登金）第611号	○			
楽天証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※販売会社によっては、現在、新規申込みの取扱いを中止している場合があります。

※野村證券株式会社、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社は一般社団法人日本STO協会に加入しています。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

以下は、取次販売会社です。

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	第一種金融商品 取引業協会 一般社団法人
大阪信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第45号				
蒲郡信用金庫	○		東海財務局長（登金）第32号				
北伊勢上野信用金庫	○		東海財務局長（登金）第34号				
埼玉縣信用金庫	○		関東財務局長（登金）第202号	○			
さがみ信用金庫	○		関東財務局長（登金）第191号				
三条信用金庫	○		関東財務局長（登金）第244号				
城北信用金庫	○		関東財務局長（登金）第147号	○			
西武信用金庫	○		関東財務局長（登金）第162号	○			
関信用金庫	○		東海財務局長（登金）第45号				
玉島信用金庫	○		中国財務局長（登金）第30号				
千葉信用金庫	○		関東財務局長（登金）第208号				
西尾信用金庫	○		東海財務局長（登金）第58号	○			
はくさん信用金庫	○		北陸財務局長（登金）第35号				
幡多信用金庫	○		四国財務局長（登金）第24号				
浜松磐田信用金庫	○		東海財務局長（登金）第61号				
播州信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第76号	○			
姫路信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第80号	○			
兵庫信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第81号	○			
平塚信用金庫	○		関東財務局長（登金）第196号				
水戸信用金庫	○		関東財務局長（登金）第227号				
横浜信用金庫	○		関東財務局長（登金）第198号	○			

当ファンドの照会先

前掲の販売会社または下記までお問い合わせください。

東京海上アセットマネジメント サービスデスク 0120-712-016 受付時間：営業日の9時～17時
ホームページ <https://www.tokiomarineam.co.jp/>

ファンド特集ページ公開中



※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。